Vol. 111, No. 9　November 2014　　題字　故 一萬田 尚登氏

月刊インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治･経済･文化交流に貢献して 111 年）

〈インド祭 開会式〉
写真提供 インド大使館

目次

1. 日本インド学生会議 ･･････ P. 3
2. インドスタディー･ツアー ･･････ P. 5
3. インドニュース(2014 年 9 月) ･･････ P. 7
4. イベント紹介 ･･････ P. 11
5. 新刊書紹介 ･･････ P. 14
6. 掲示板 ･･････ P. 15

1. 日本インド学生会議
JAPAN-INDIA STUDNT CONFERENCE

日本インド学生会議

−本会議を終えて−

日本インド学生会議 [illegible]長

（慶應義塾[illegible]年）

☆★日本インド学生会議とは★☆

「学生の学生による国際社会の将来のための会議」をモットーとし、
以下の基本理念を掲げています。

1. 学生という立場を存分に生かした、既存の概念や営利関係、特定の政治･宗教にとらわれない自由かつ建設的な直接討議を通じ、世界の諸問題について新たな意見、解決策を導き出し、自ら実行するとともに、それらを社会に報告・提案する。
2. 上記のような討議に限らず、日本とインド両国の学生が寝食をともにする本会議の全日程、そこまでの準備期間を通じて、両国の学生が直接的な交流をすることにより、お互いの社会、文化、価値観、考え方などについて認識･理解をし、それらを社会に発信する。

この実現に向かって、日本インド学生会議は年間を通して活動しております。
私たちの基本的な１年間の活動は、準備活動（組織運営、勉強会、合宿など）→**本会議**開催→報告書編集・報告会開催→社会還元活動という流れを軸としています。これらの活動の中心となる定例ミーティングでは、委員全体で審議すべき事項や各担当局からの報告などを行います。
また、インドに関する知識を身につけるための「勉強会」も行っています。

☆★2014 年の本会議について★☆

去る 10 月 4 日から 14 日までの 10 日間、本会議が開催されました。
本会議は、3 年に 1 度の頻度で日本開催を行っており、本年はその日本開催の年でした。
コルカタから 8 名、チェンナイから 1 名、コヤンバートルから 3 名の合計 12 名のインド人学生たちが日本を

訪れ、6 人の日本人メンバーと分科会や幼稚園・高校訪問、観光等を通して親密な交流を行いました。
お互いにとって、一生忘れることのない貴重な経験をすることができました。
2014 年本会議の日程は以下の通りです。

日　程	宿泊	内容
10 月 3 日(金)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	到着
4 日(土)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	オリエンテーション 開会式、文化交流会
5 日(日)	山田大橋キャンプ場	生活文化交流(料理) アクティビティー(キャンプファイヤ等)
6 日(月)	山田大橋キャンプ場	生活文化交流(料理) アクティビティー(スポーツ、花火) 分科会①
7 日(火)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	高校訪問(分科会②)
8 日(水)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	フィールドワーク(分科会③) インド人ワーカーとのお食事会
9 日(木)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	幼稚園訪問 着物の着付け体験
10 日(金)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	分科会④まとめ・発表 ミーティング
11 日(土)	各ホームステイ先	観光(浅草、スカイツリー) ホームステイ
12 日(日)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	ホームステイ 観光(東京、秋葉原)
13 日(月)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	観光(原宿、表参道)
14 日(火)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	インド大使館への表敬訪問 閉会式
15 日(水)		出発

☆★各プログラムの内容★☆

【生活文化交流】

本会議の初期に一つ屋根の下で生活をともにし、両国メンバー同士で親密を深めることで、10 日間という短い本会議の期間がより濃いものとなりました。

【分科会】

「福祉」、「環境」、「教育」の 3 つのグループに分かれ、各々の興味分野でさらにテーマを絞りディスカッションを行いました。加えて議論に沿ったフィールドワークにも足を運んだほか、高校訪問では高校生との簡単なディスカッションを通して見聞を広げました。

【文化交流会】

日本側、インド側がそれぞれの文化を発表し、交流を深めることが目的です。インド側は歌や踊りの発表、日本側はメンバーによる踊りの動画の発表、「アマチャの会」の皆さまによる日本舞踊の披露を行いました。

【ホームステイ】

外国で「日常」を体験するには、ホームステイが最も有効な手段ではないでしょうか。インド人メンバーが日本の家庭で過ごすことによって、メンバーとホストファミリーとの間に親密な関係が生まれ、日本開催がより豊かなものとなったに違いありません。

〈着物の着付け体験〉

〈大使館表敬訪問〉

〈浅草観光〉

（写真提供；日本インド学生会議　井上咲菜 広報局局長）

2. 大阪大学学生によるインドスタディーツアー
Students of Osaka University visited India for Study Tour

大阪大学外国語学部中国語専攻　藤井勇太

私が所属する、大阪大学国際問題研究会の学生 6 名は、9 月 6 日から 18 日まで、インドにスタディーツアーへ行ってきました。我々は、2011 年より活動を開始し、学生主体で行われる勉強会や大使を大学にお招きした講演会運営などを日々行っています。現在、大阪大学の学生 8 名で活動し、日印協会学生会員として、同協会主催の行事に参加するなど、インドに対して一人一人が興味をもっています。　しかし、このような状況下で活動してきた我々にとって、インドは近くて遠い存在でした。インドに関する文献を読み、日印協会を始め様々な場で知り合ったインド人の方々と接する機会がある一方で、実際に現地へ行き、生身のインドを感じたことのあるメンバーは少数でした。そのため、自分達自身で計画･立案し、学生の立場から、多角的にインドの現状を捉えたいという思いで、今回のスタディーツアーを計画しました。多角的にインドを捉えるためには様々な側面からのアプローチが必要と考え、今回のスタディーツアーのコンテンツは、スラム訪問･日系企業訪問･政府機関訪問･現地の学生とのディスカッション･観光を行うことに決まりました。

【スラム訪問】

インドに精通した方々にお話しを伺う中で、安全を担保することが重要と考え、今回はインターネットを通じ、現地NGO団体PETEのツアーに参加しました。当日はスラムを支援しているインド人女性の引率のもと、スラム訪問が実現しました。スラムの実情を体験したことがなく、若干の緊張感が漂う我々を待ち受けていたのは、スラムの子供達の熱烈な歓迎でした。満面の笑みで「Hello. Your name? 」と絶えず握手を求められ、貧困を明るさで吹き飛ばすような強いエネルギーを感じました。今回訪問したスラムは6.5エーカーに及ぶ広大な敷地に、無計画に建設された家屋がひしめく一方でインフラは未整備なままなど、根本的な解決方法を安易に導きだすことはできませんでした。ただ、スラム訪問を体験したものとして、これからどういう支援を行っていく必要があるか、各々が考えなければならないと感じた１日となりました。

【日系企業訪問】

インド人の労働環境からインド人のライフスタイルを知り、日本企業のインドの捉え方を通してビジネスの観点から日印関係を考えたいという思いで、インドに進出している日系企業訪問を発案しました。インド日本商工会(JCCII)にご協力を頂き、パナソニック、マルチ･スズキを訪問しました。ハリヤナ州ジャジールにあるパナソニック･テクノパーク工場及びマルチスズキ･グルガオン工場では日本からの駐在員及び現地スタッフより、両社のインド進出状況に関する説明を受け、実際に製品を製造している過程を見学し、インドでビジネスをする難しさや苦労、そして実際にどのような環境下でインド人が働いているのか、など幅広く見聞きすることができました。日本製のクオリティーを担保するために人件費の安いインドでも、機械化を推進したり、極力インド社会に適応した会社制度作りに力をいれながらも、安全･安心等の日本式教育を徹底したりといった点には特に驚かされました。来年度以降の卒業生には、民間企業で働く予定のものがおり、皆グローバルな環境下で働いてみたいという思いをもっています。実際に現地で働いている方にお会いして、そのやりがい、苦悩を伺えたことは今後のキャリアを考える上で非常に参考になりました。

【公的機関訪問】

<↓日本大使館にて
八木大使(中央)、筆者(右から２人目)>

日印協会平林博理事長、中山太郎元日印議員連盟会長、Aseem R Mahajan在大阪･神戸インド総領事、外務省南西アジア課横手文徳様などのご尽力により、駐印日本大使館を訪問することができました。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げます。インド外務省では東アジア課中国専門のShilpak Ambuke氏のオフィスを訪問し、日印外交等に関する質疑応答をしていただきました。その後、8 月のモディ首相の京都訪問で、通訳兼学生スタッフとして当団体がお手伝いをさせていただいた際にお世話になった、外交官Venkat氏にインド外務省内で偶然お会いしました。同じく京都でお世話になったVanlalvawna氏とも再会することができました。日本大使館では、八木毅駐印日本国大使を表敬訪問し、大使の実務やキャリア、モディ首相来日の際のインドでの反応などをお話させて頂きました。その後、中川勉政務公使より貴重なご講義をいただきました。公使は、我々が何のためにインドに来て、どんな問題意識をもっていて、何を得たいのかこそが最も大事だと語り、その後複雑奇怪なインドという国の捉え方、世界の見方、連続性や地政学で考える外交論などを長時間にわたりご教授いただき、今後の我々の団体の活動を考える上で、大きなヒントを頂きました。

【インド人学生とのディスカッション】

自分達と同じ世代のインド人がどのような考え方をしているのかを知りたいという思いから、インド人学

生とのディスカッションを計画し、YMCAのご協力のもと実現しました。訪印前に観た『3 idiots』というインド映画の中で若年層の自殺が扱われていたので、調べたところ、日本に比べて自殺率こそ低いものの、インドでも社会問題になっていると分かり、「インドにおける自殺問題」をテーマにしました。始めに導入として両国の代表者がテーマに関するプレゼンテーションを行いましたが、インド側の準備は非常に周到で驚かされました。ディスカッションでは、3つのグループに分かれ、それぞれのグループがインドの自殺の要因となる問題を一つ上げ、それに対する対策を考えるという形式で行われました。議論は白熱したものとなり、制限時間内にそれぞれのグループが結論をだすことができました。今回のディスカッションでは、英語が堪能な弊団体のメンバーが討論をリードする一方で、インド人学生のパワーに圧倒されることも多く、自分の意見を主張し、皆に聞いてもらう過程で、日本とは全く違うやり方に多々驚かされました。このような環境下でも臆することなく自らの価値を発揮できる者こそが、国際社会で活躍することができるのだと気づかされた一日でした。

【まとめ】

今回のスタディーツアーではインドを『多角的にみる』という目標で準備してきました。このスタディーツアーを通じて、スラム訪問や学生間のディスカッション、アグラ・バラナシ観光(都合により割愛)等、実際に五感を通じた体験によって「ミクロ」のインドを感じられた一方、大使館・外務省訪問や日系企業訪問を通して、インドを「マクロ」な目線でとらえている方々のお話を伺えたことで、より多角的で重層的にインドを理解できたのではないかと考えています。そして、私達は一人一人が将来的に国際舞台で活躍することを目標に活動しているため、官民問わず、海外の第一線で働かれている方とお会いし、実際に現地で感じたことを伺えたことで、自分の将来の理想像を構築する、よききっかけになったと感じています。

しかし、帰国して冷静になって考えてみると、一度の訪問だけではインドを包括的に理解するには限界があり、まだまだ私達の知り得ない部分も多くあることに気づきました。この経験をもとに、もっとインドのことを理解するために、日本国内でも勉強を続け、日印協会でのイベントを始めとする、日本でのインドとの交流も大切にしていきたいと思っています。そこから得た知恵を次回インドに行った際に活かし、少しずつインドへの理解を深めていきたいです。

最後となりましたが、今回の我々のスタディーツアー中、及び計画段階でお世話になった、日印問わず全ての方々に対し、改めて感謝申し上げます。

3. インドニュース（2014 年 10 月）News from India

Ⅰ. 内政

10月17日

- デカン・クロニクル紙等によれば、17日、印最高裁は9月27日に不正蓄財容疑により有罪判決を受け収監中のジャヤラリタ前タミル・ナド州首相からの保釈請求及び刑の執行差止めに関し、一部の条件付で12月18日までの仮釈放を認める判決を下した。

メモ:
報道によれば，最高裁は、12月18日に公判を開き、公判後3ヶ月以内に結論を出すこととしている。最高裁は，仮保釈を認める条件として、バンガロール高裁が定める保釈金の支払い、ジャヤラリタ前州首相がタミル・ナド州における治安と秩序の維持を守ること、仮釈放後は自宅内にとどまり来客との接触も最低限とすることとの条件を示し、同前州首相はこれを承諾した。

10 月 19 日

● 19日、選挙管理委員会は、マハラシュトラ州及びハリヤナ州において15日に投票を実施した州議会議員選挙の結果を以下のとおり発表した。

マハラシュトラ州(全288議席)	獲得議席数（前回からの増減）
インド人民党(BJP)	122議席(+76議席)
シブ・セナ(SS)	63議席(+19議席)
コングレス党	42議席(-40議席)
民族主義会議派(NCP)	41議席(-21議席)
Maharashtra Navnirman Sena(MNS)	1議席(-12議席)
その他	19議席(-22議席)
ハリヤナ州(全90議席)	
BJP	47議席(+43議席)
インド民族ロック・ダル(INLD)	19議席(-12議席)
コングレス党	15議席(-25議席)
ハリヤナ公益コングレス党(HJC)	2議席(- 4議席)
その他	7議席(- 2議席)

メモ:
マハラシュトラ州においては、BJPが122議席を獲得して第1党となった。但し、過半数(145議席)には及ばなかったため、BJPは連立工作を行っている。
ハリヤナ州においても、BJPが過半数(46議席)を1議席上回る47議席を獲得し、BJPによる政権交代となった。

10月23日

● 各種報道によれば、23日(ディワリ祭日)、モディ首相は、ジャンム&カシミール州スリナガルを訪問し、洪水被害の現場視察等を行った。また、同日、標高約4千メートルのシアチェンの軍施設を訪問し、軍人らを激励した。

10月25日

● 25日、インド選挙管理委員会は、ジャンム&カシミール州議会(87議席)及びジャールカンド州議会(81議席)選挙の投票を5回に分けて実施(11月25日、12月2日、9日、14日及び20日)すると発表した。開票日は12月23日。

10月26日

● 26日、マノハール・ラル・カッタル氏(BJP所属，初当選)が、ハリヤナ州首相に就任した。就任宣誓式には，モディ首相も参加した。

メモ:
報道によれば，カッタル同州首相率いる新政権は，汚職追放と開発促進を第一の政策としている。

10月31日

● マハラシュトラ州にて、31日、デヴェンドラ・ファドナヴィスBJP同州代表(44歳、州下院議員当選4回)が州首相に就任した。宣誓式は，モディ首相の同席の下、ムンバイ市内のクリケット場で開催され、参加者は3万人とも報じられた。

メモ:
ファドナヴィス新州首相は，若いころ民族奉仕団(RSS)のメンバーとなっている。若干27歳でマハラシュトラ州ナーグプル市長となった政治家。新時代のクリーンな政治家としての評判もある。今次州選挙中，同新州首相の支持者らは，「デリーにナレンドラ(モディ首相)，マハラシュトラにデヴェンドラを」とのキャッチーなスローガンを掲げてきた。

Ⅱ．経済

10月9日

● インド商工省は、日本からの投資を促進する窓口として「Japan Plus」の設置を発表した。

メモ:
商工省報道発表によれば「Japan Plus」は日本からの投資につき誘致・促進するとともに諸問題を迅速に処理・把握すること、また特定のプロジェクトや産業回廊における投資機会に関する最新情報を提供する役割を担う。

10月16日

- インド財務省は、財務省首席経済顧問にピーターソン国際経済学研究所シニア・フェローのアルビンド・スブラマニアン氏を任命。

10月18日

- 内閣経済関係閣僚委員会(CCEA)は、ディーゼル油価格規制の撤廃、及び新たな国内天然ガス価格決定政策を承認した旨発表。

メモ:ディーゼル油価格が今後市場価格と連動することになれば，ガソリンとディーゼル油がともに市場価格に連動し，自動車メーカーにとっては新型車の開発や投資への契機となり，消費者にとってはディーゼル油とガソリンの価格に縛られることなく、好みや利便性に基づいて自動車を選ぶことができるとの好意的な評価が報道されている。

Ⅲ. 外交

10月6日

- 各種報道によれば、6日、ジャンム・カシミール州のアルニア地区で、パキスタン側の迫撃砲の射撃により、5名の民間人が死亡し，少なくとも34名が負傷した。

10月12-14日

- 大統領府発表および各種報道によれば、ムカジー大統領がノルウェーを訪問し、ソールベルク首相及びハラルド5世ノルウェー国王夫妻と面会した。また、ノルウェー議会を訪問した他、フラム号博物館を訪れ、インドの北極観測基地「ヒマドリ」に滞在しているインド人科学者とビデオリンクで会話した。

メモ:
両国は、教育、貿易分野等に関する12の成果文書に署名。なお、インド大統領による同国訪問は初めて。

10月14-16日

- 大統領府発表および各種報道によれば、ムカジー大統領がフィンランドを訪問し、ニーニスト大統領、ストゥッブ首相、トゥオミオヤ外相らと会談した。

メモ:
フィンランド側は、インドの国連安保理常任理事国入り及びインドのNSGへの加盟を支持すると述べた。両国は、教育、再生可能エネルギー、漁業分野等に関する19の成果文書に署名し、今後3年間で二国間貿易を額面で2倍とすることで合意した。

10月13-15日

- 各種報道によれば、ベアード・カナダ外相が訪印し、スワラージ外相との間で、戦略的対話を行った。

メモ:
両外相は、核の安全保障に関するワークショップの共催、原子力発電所の研究・開発の可能性等原子力分野での協力を含むエネルギーに関して協議した。

10月16-17日

- 各種報道によれば、「印中国境問題の協議と調整のための作業メカニズム」会合がニューデリーで開催された。

メモ:
印中双方は，陸軍参謀本部及び現場司令官との定期的な接触，国境部隊のミーティング・ポイントの追加，相互に合意した地点における前線間での通信連携の向上を含む，更なる信頼醸成措置について合意した。

- インド外務省発表によれば、V. K. シン外務閣外相がミラノで開催された第10回ASEM首脳会合に出席した。

10月19-21日

- 各種報道によれば、パンディ・ネパール外相が訪印し、スワラージ外相と11月にカトマンズで予定されているSAARCサミットについて協議した。

メモ:
パンディ外相はモディ首相を表敬し、SAARCサミットへ正式に招待した。モディ首相は，インドはSAARC諸国との関係を重視している、SAARCサミットへの出席を楽しみにしていると述べた。

10月22日

- インド外務省発表によれば、ホセ・アントニオ・ミード・クリブレーニャ・メキシコ外相が訪印し、スワラージ外相との間で、第6回インド・メキシコ合同委員会が開催された。

メモ:
1984年に本合同委員会が設立して以降、今回初めて、閣僚レベルで本合同委員会が開催された。協議では、二国間関係のみならず、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)及び太平洋地域を含む多国間関係について議論が行われた。また、科学技術、観光、農業の合同作業部会も同時に開催され、インド宇宙研究機関(ISRO)とメキシコ宇宙庁との間で平和目的での宇宙協力に関する覚書が署名された。

10月27-28日

- インド首相府発表および各種報道によれば、グエン・タン・ズン・ベトナム首相が訪印し、モディ首相と首脳会談を行うとともに、共同声明を発出した。また、ズン首相はビハール州ブッタ・ガヤを訪問し、マンジ・ビハール州首相とも会談した。

メモ:
首相一行にはベトナムより多数の企業関係者が同行し、インドのCII, FICCI, ASSOCHAMとの印越双方に対する投資について個別の協議を行った。首脳会談では、2020年までに貿易額を150億米ドルとする目標を掲げた。また、油田開発，防衛協力，海上安全保障分野等での協力等につき協議し、インドの石油天然ガス公社(ONGC)とペトロ・ベトナムとの間の覚書を含む7つの成果文書に署名した。

Ⅳ. 日印関係

10 月 1-2 日

- 海上保安新聞によれば、1 日、東京湾羽田沖にてインド沿岸警備隊の巡視船が海上保安庁の船艇との海賊対策連携訓練を実施した。また、海上保安庁とインド沿岸警備隊による日印海上保安機関長官級会合が 2 日に東京で開かれ、佐藤雄二長官とタプリヤル沿岸警備隊長官が出席した。海上テロ対処の情報共有や対処能力の向上を図ることや、スリランカやモルディブなどの海上保安能力の向上のために、日印連携訓練への参加を促すことなどで合意した。

10 月 16 日

- 外務省発表によれば、16日、城内外務副大臣は、外務省において、タルン・ヴィジェイ上院議員(BJP)を団長とするインド国会議員団(計5名)による表敬を受けた。ヴィジェイ上院議員から、インドでは与野党を問わず日・インド関係の強化に向けた共通意識が存在し、関係を一層発展させていきたい旨述べたのに対し、城内外務副大臣からは、インドとの関係を大変重視しており、戦略的協力関係を一層強化していきたい旨述べた。

今月の注目点：モディ政権は健在か　～注目を集めた州議会選挙の結果～

　インド最大の商都であるムンバイを州都とし、人口１億１千万人を擁するマハラシュトラ州は、インドの中でも大規模な州であり、政治的にも重要な要所だ。首都デリーに隣接したハリヤナ州とともに、今月行われた両州の州議会選挙は、それ自体の重要性と共に、本年５月に発足したモディ政権に対する初めての有権者の評価としても注目された。

　マハラシュトラ州下院議会は、１９９９年以降、コングレス党及びコングレス系の党である民族主義会議派(ＮＣＰ:１９９９年、シャラッド・パワールらコングレス党員が同党を脱退し結成した党)が州政権を

担ってきた。しかしながら、今回の州下院議会選挙(全２８８議席)にて、ＢＪＰが改選前の４６議席から１２２議席へと躍進し、第一党に躍り出た。また、ハリヤナ州の今次州議会選挙(全９０議席)においても、ＢＪＰは、改選前の僅か４議席から４７議席へと大幅に躍進し、過半数を獲得した。２期に渡ったコングレス党からの政権交代となった。

ＢＪＰの主な勝因としては、例えばマハラシュトラ州では、モディ首相が、１０月４日から１０日かけて同州全域１６カ所を日帰りで訪問し政治集会を行うなど,選挙戦終盤において精力的な選挙活動を行い、本年５月の下院総選挙におけるモディ･ウェーブの勢いを維持したことが挙げられよう。今回、ＢＪＰは、両州での基盤を強化したばかりか、全国政党としての存在感を更に拡大することとなった。一方、コングレス党は、両州での州政権を手放し、更に弱体化した形となった。

4.　イベント紹介　Japan-India Events

=◇ 最近のイベント ◇=

◆『Make in India』発足記念セミナーに参加して

インドのナレンドラ･モディ首相は、9 月に初来日し、日印協会及び日印友議議員連盟共催の歓迎会において、参加者に強烈なインパクトと感動を与えてくれたこと、まだ記憶に新しいところである。5 月に新政権を発足させ、日々新政策を打ち出しているが、その大きな柱の一つが、『Make in India』(インドで物作りをしよう)だ。インド政府は世界に向けてこのメッセージを発信した。10 月 7 日に『Make in India』キャンペーンの発足記念セミナーが、インド大使館にて開催された。本セミナーはインド大使館、及び公益社団法人在日インド商工協会の主催で、多くの企業、特にメーカー系の参加者が目立った。

同キャンペーンは、モディ首相の強い意向で、日本のみならず、インドと縁の深い国々に向けて発せられ、『インドはソフトウェアの国』というイメージを払拭して、製造業振興を図り、『インドはハードウェアの国』へ変身すべく、大きく踏みだそうと意図されたものであり、外資を導入することにより、製造業を増やして、安定した雇用創出と地域開発を図り、国内巨大市場への供給と近隣国外市場へインド産ハードウェアを輸出するのが目的だ。インドのイメージであるソフトウェアはインド GDP の 6～7 割の割合で、ハードウェアは僅か 15%程度であり、これを 25%に押上げるのが目標だ。

モディ首相の決意表明を込めた映像が最初に流され、目的達成のための諸施策が着任間もない Amit Kumar 首席公使により披露された。特記すべき点は、このスローガンが期待する背景と、より具体的に期待する産業分野、目標数値が鮮明にされたことであろう。日本企業から見て、成功する手立てを筋道立てて導入を図ろうとしているインド政府の姿勢が見えてきた。モディ政権は、政府主導による経済改革を図るとの印象が強烈である。このような姿勢に触発され、日本企業が更にインド進出にすべき、との思いを強くしてくれることを期待したい。

左記は『Make in India』のロゴマーク

◆インディア･メーラー2014

△▼△ インディア･メーラーについて△▼△

西日本最大のインドのお祭り「インディア･メーラー2014」が 10 月 11 日(土)から 12 日(日)、神戸のメリケンパークで開催されました。

2010 年より始まりました「インディア･メーラー」ですが、ご指導いただいております在大阪神戸インド総領事館ならびにご協力いただいた関係団体の皆様、そして、イベントを応援してくださる沢山の皆様のおか

げで、今では関西のみならず、東海･四国･中国地方の皆様にも足を運んでいただける印日交流イベントとなりました。

台風の影響により 2 日間の開催となりましたが、開催中は天気にも恵まれ、多くの方にインドの文化を堪能していただく素晴らしい機会になったかと思います。

第 5 回の今年は、インドと日本の有効の歴史を綴った写真展も開催。そこでは、あらためて両国の絆の深さを感じ、ステージでは多くのパフォーマンスが披露され、中でもインド本国からのゲスト、チェンナイのカラクシェトラ芸術学院のパフォーマンスには、そのパワーと美しさに多くの方が魅せられました。

青空広場では、ボリウッドダンスやヨガ、オリジナルアクセサリー作りやヒンディ語で名前を書くなどのコーナー、そして回を重ねるにつれ人気を集めている「みんなで踊ろう!! ボリウッドダンス」では会場内がダンスの熱気に包まれ、子供から大人の方まで、普段はできないインド体験を楽しんでいらっしゃいました。

青空の下、スパイスの香りに包まれた広場で、訪れていただいた皆様が笑顔で「五感でインドを体験する」ことができたのではないでしょうか。

（文･写真提供；インディア・メーラー実行委員会 東登子実行委員）

△▼△ 印日関係写真展 △▼△

西日本最大のインドのお祭り、「インディア･メーラー」が今年も神戸メリケンパークで 10 月 11 日から 12 日まで開催されました。2010 年に立ち上げたメーラーも今年で 5 回目を迎えました。台風の為、残念ながら 3 日間の予定を 2 日間に短縮しての開催となりましたが、16 万人を超える多くの方々にご来場いただきました。

今年は、新たな試みとしてインド総領事館のテントを利用して、日印協会の協力により、“印日関係写真展” を開催しました。印日平和条約締結の様子や、ネルー元首相やインディラ･ガンジー元首相の訪日の様子をおさめた写真、日本の天皇皇后両陛下の昨年の御訪印や、両陛下が皇太子と皇太子妃時代にインドを訪れられた際の貴重な写真も展示されました。その他にも安倍首相がインドを訪問した際のものや、つい先日来日を果たしたモディ首相の様子なども展示され、両国関係の歴史を、政治、経済、文化など様々な出来事をおさめた写真を通して来場者に見てもらう機会となりました。

兵庫県副知事、金澤和夫様、神戸市市長、久元喜造様ご同席のもと、テープカットを行い写真展が始まると、多くの来場者が足を運び、1 枚 1 枚貴重な写真にじっくり見入っている様子がみられました。

インドと日本は何世紀にも渡る文明的なつながりを有しており、近年では、戦略的グローバルパートナーシップを結び、共通する価値観や、戦略面での利害関係の一致、経済に対する大きな期待などに基づき多角的な関係を築いています。そのことを象徴するかのように、昨年には天皇皇后両陛下の歴史的な御訪印があり、またそれに続き、日本の安倍首相がインドを訪問し、共和国記念日式典に主賓として出席をされました。

そして、インドからもナレンドラ･モディ首相が就任早々に先日来日されました。両首相は、二国間関係の強化を心から望み力を注いでおり、今まさに両国では、印日関係の更なる発展を望む機運が高まりをみせているときであり、そんな両国がこれまで築いてきた絆を再確認できる場となったと思います。

在大阪･神戸インド総領事館では、今後もこのようなイベントやセミナーなどを通して、両国関係の歴史を紹介する機会を設けていきたいと考えています。今回の写真展開催にあたり、大変貴重なお写真の数々をご提供いただき、ご協力いただきました日印協会に、感謝申し上げます。

（文･写真提供；インド総領事館 武笠千春氏）

◆インド祭開会式

この9月に公式来日されたインド･モディ首相は、安倍総理との間で多くの覚書に調印をした。その一つに、

双方の人的交流の一環で、『インド祭(Festival of India)』を実行すると約束した。10 月 27 日(月)にインド祭の開会式が挙行され、同日に早速のインド祭の行事の一つである、モヒニヤッタム ダンス(Mohiniyattam Dance)が披露された。

開会式には、ワドワ駐日インド大使の他、インド政府からシュリパッド・ナイク文化観光大臣と日本側から太田国交大臣が臨席された。来賓によるボタンによって、点火台に点火された。ワドワ大使より、インド祭のロゴマークには弁財天とサラスワティの女神があしらわれており、夫々のイベントが東北被災地を廻って激励するとの紹介があった。太田大臣からは、モディ首相肝煎りのイベントで、ご自身が 9 月に訪印した時に観光面で大いに協調しようとの合意があったと披露された。また、ナイク大臣からは、26 年前から観光事業にインド政府は関与しており、今年度のイベント内容をお話された。引続きモヒニヤッタム ダンスが演舞された。インドのダンスとは、シタールやタブラなどを高らかに奏でながら、踊り手は手足に鈴をつけ、過激に力強く踊るとの先入観があったが、このダンスは、全く異質であった。実に優雅で、優しく、柔らかく肢体をうねらせ、女性らしさを誇張する踊りであった。踊り手の顔の表情と手の所作、特に、目の動きが印象的であった。柔和な視線、しかし鋭く射るような視線は、物語を表現する大きな武器である。

=◇ 今後のイベント ◇=

◆インドを語る集い<様々なインド>第 35 回　『インド人噺家が語るインド漫談』

協会主催の、ミニセミナーです。今回は、立川談志の弟子でもある、マルカスさん、別名立川談デリーさんを講師にお迎えして、行います。同封の参加申込所をご確認のうえ、お申込み下さい。

日時: 2014 年 12 月 5 日(金)　　18:00～19:30
会場: 公益財団法人日印協会 事務局　東京都中央区日本橋茅場町 2-1-14 スズコービル 2F
講師: マルカスさん（立川談デリー）
定員: 30 名
参加: 無料（非会員 500 円）

5. 新刊書紹介
Books Review

§『日本とインド、いま結ばれる民主主義義国家―中国「封じ込め」は可能か』

「日本とインド、いま結ばれる民主主義義国家―中国「封じ込め」は可能か」（櫻井よしこ編）文庫版が出版されました。　文芸春秋社が 2012 年に発刊した同名のハードカバーが、インドおよび中国への関心の高まりとともに好評を博したので、このたび廉価（本体価格７００円）でポケットに入る文庫本が発刊されたものです。インド、中国そして日本の情勢をめぐる最新情報を取り入れるために、日印両国の著名な著者たちは、本文ないし末尾に「文庫版のための追記」を行い、アップ・トゥー・デイトにしました。

安倍晋三総理がインド国会で行った名演説「海で出会う二つの民主主義国家」および「安倍総理、アントニー印国防大臣、櫻井よしこ国家基本問題研究所長の鼎談」のほか、インド理解のための好個の論文が多数掲載されています。

平林博・弊協会代表理事・理事長も、総合的な見地から書きおろした「歴史的絆から戦略的グローバル・パートナーシップへ」と題する当初の論文に、モディ首相の訪日までの最新状況を追記したものを書いています。

著　者：櫻井よしこ　国家基本問題研究所編
発　行：文春文庫
価　格：700 円+税

§『すごいインド　なぜグローバル人材が輩出するのか』

国民格差、多様性、巨大人口と構成、経済発展のスピード、組織等々、インドと日本はすべてが対照的だと、インドと日本の実態を熟知し、日印の架け橋の役目を担う筆者は、自分の実体験をベースに明快に解説していています。インド人の筆者から見ても様々な意味で「インドはすごい」と痛感するほど、今のインドを紐解いています。

著　者: サンジーヴ・スィンハ
発　行: 新潮新書
価　格: 720 円+税

6. 掲示板
Notice

〈次回の『月刊インド』の発送日〉

次回発送は2014年12月12日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

〈E-Mail アドレスをご連絡下さい〉

協会から会員の皆様への連絡に、FAX乃至郵送よりも迅速なE-Mailを使う機会が増えておりますので、優先的にE-mailを使わせて頂きます。アドレスのご登録がまだの方や、変更のあった方は、協会事務局までご一報下さい。

〈編集後記〉

モディ政権が発足して半年が経過し、インドが変化していく。政治経済は目に見えて変化が激しい。それと同じくして、文化面でのインドからのアプローチが活発になりつつある。いよいよ日本における『インド祭』が始まり、インド古典舞踏を皮切りに種々のインド文化が向こう半年にわたって日本を駆け巡る。この機会に是非ともインド文化に、もっと接してみませんか。日本にない伝統を感じて頂きたいと思っています。と云ってもなかなか馴染めない分野もありますので、選択が難しいところでもあります。今までは、昔からインドに馴染んでいた会員、或いは何かインドに魅力を感じる会員の方（中高年が多いと見受ける）が沢山居られましたが、本文の日本インド学生会議や大阪大学のスタディーツアーに著されているように、最近は学生も含めて若い方がインドを志向されている傾向が見られ、頼もしく、かつ若い感覚を日印協会に伝えて頂くのは、本当に心強い限りです。

なお、今まで『貿易概況』を2ヶ月毎に掲載しておりましたが、データがタイムリーでないことや会員の企業分析には、より詳細なデータが別途入手可能であるため、今後は掲載を中止させて頂きます。

（記 笹田勝義）

入会随時受付中

1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：	個人	6,000円/口	☆入会金	個人 2,000円
	学生	3,000円/口		学生 1,000円
	一般法人会員	100,000円/口		法人 5,000円
	特別法人会員	150,000円/口		（一般法人、特別法人会員共に）

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解･ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.111 No.9（2014年11月14日発行） 発行者 平林 博 編集者 笹田 勝義
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: http://www.japan-india.com/